

洋書輸入協会会報

VOL. 24

NO. 11

(通巻283号) 1990年11月

理事会報告

9月26日(休)

(一) 懇談会

9月17日(月)に開催された懇談会の出席人員(26社31名)および発言要旨について報告があり、来年度の予算編成は、ここで出された意見を考慮に入れて理事会で方向を出し、委員会にはかって決定することとなった。

(二) 創立50周年記念行事小委員会

JBIAの50周年に当たっての記念行事などを検討する小委員会を設けることとし、次の各社に委嘱した。

委員長 第一出版貿易

委員 丸善、紀伊國屋、ユサコ、洋販

(三) フランクフルト書籍展

協会の広報活動の一環としてメンバー・リスト'90を400部会場で配布する旨広報委員長(第一出版貿易 佐々木大刀夫氏)から報告があった。

(四) 消費税

消費税の転嫁・表示方法についての共同行為は、明年3月末日で期限切れとなるので、その後の対応について検討することとなった。

(五) 顧問の委嘱

相良広明氏の任期が1989年9月で修了となっていたので、引き続き1991年9月までの2年間委嘱することとし、事務局から同氏に依頼することとした。

(六) その他。

10月17日(休)

(一) 9月分収支計算・予算対比表

10月5日(金)にひらかれた総務委員会での検討にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) フランクフルト書籍展

日本年として10月3日から8日まで開催された上記書籍展に参加した報告がおこなわれた。

(三) 顧問

相良広明氏が1989年9月から1991年9月まで引きつづいて顧問に就任することを応諾されたことが事務局長から報告された。

(四) 50周年記念行事小委員会

構成について打合せた。

(五) その他

Oxford Advanced Learner's Dictionary, 4th ed. Hardcover版の価格について、オックスフォード大学出版局ELT営業部が調査した結果についての資料が配布された。

理事会報告1	海外ニュース2	ドイツおよびヨーロッパにおける 書籍市場とメディア諸構造(2) ...6 広告8
第22回洋書まつり2	洋書輸入協会史(6)3	
文化厚生委員会だより	東京の坂と橋と文明開化(8)5	
第56回72会ゴルフコンペ2		

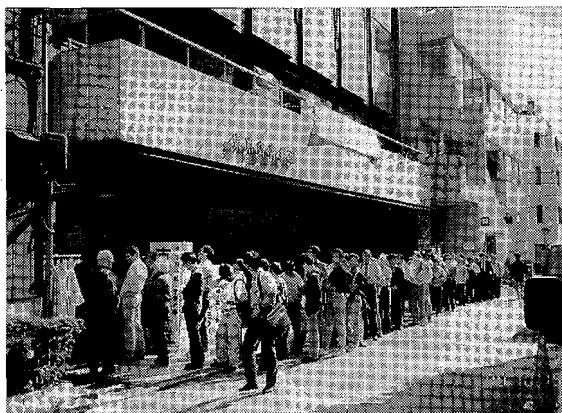
第22回洋書まつり

毎度おなじみ、恒例の洋書まつりが今年もまた、10月19・20日の両日、神田駿河台下東京古書会館にて開催されました。今年で22回目。第1回の洋書まつりに生まれた子は、もう大学を卒業する年となってしまったわけです。

東京ドームでは日本シリーズが開幕しているころ、秋晴れの下、洋書をもとめてお客様が陸続と訪ねていただきました。人波は途切れることなく、会場はラッシュアワーなみの大混雑。2日間の売上は6,600冊余り、474万円と好成績を残しました。

みなさまありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。お願い申し上げます。

(SU)



第56回72会ゴルフコンペ

狭山ゴルフクラブ 1990年10月17日(木)

10月中旬すぎだというのに夏の様な天気。コースはほとんど平らな名門狭山ゴルフクラブ。スコアが悪くても言訳のできない絶好のコンディションのもと、72会コンペが行われました。ほとんどの人達が半袖姿。長袖を着てスタートした人も途中でお色直し。入間と福生の空軍基地に近いため発着の軍用機がときたま頭上をかすめてゆく中で激戦が行われました。終ってみると後藤明美さん(フェファアー)の圧勝。

後藤さんはこの72会には1年数カ月ぶりの参加でしたが、協会メンバーによる他のコンペで2連勝中のとのこと。ゴルフ好きの仲間達にいろいろ話題を提供してくれます。3ヶ月ほど前にはシロウトゴルファーの夢であるハーフ30台というスコアをだして業界に話題をまきました。ゴルフをされない方はご存知ないかもしれませんが、普通コンペに女性が参加する時はレディースティーといって、一打目を男性より前から打ちます。しかし彼女の場合は男性とまったく同じ条件でプレイするのがほとんどです。今回も距離が長くて女性には不利とみられるコースで同条件での優勝。ごりっぱというしかない。男性達の溜息が聞こえるパーティーではみんなで坊主になろうという提案も。

後藤さん一色のリポートになりました。後藤さんごめいん。

優 勝	後藤明美 (フェファアー)	47.47	Net78
準優勝	川原孝人 (U.P.S.)	47.46	Net79
3 位	豊泉 弘 (大洋交易)	51.48	Net79

ベストグロス	大野俊 87
ドラコン	内山芳正、豊泉 弘
ニアピン	内山芳正、大野 俊

(S.W.)

海外ニュース

「英国書籍の平均単価と値上率」

1990年前半期(1月～6月)において英国では2,777の出版社から28,036点の書籍が出版され、その定価合計額は£556,337.51で、平均単価は£19.84であった。前年同期と比較すると、出版点数は約20%の増加、平均単価は16.5%もの大幅な値上がりとなっている。ただし、1989年後半期の平均単価は£20.45であったから、これよりは約3%の値下がりである。

なお、新刊書の平均単価は£20.84で、前年同期と比較して14%の値上がり、重版書・復刻版は£17.08で27.5%の値上がり、新刊のクロス装小説は£11.56で7.1%の値上がりであった。(The Bookseller、8月24日号より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

洋書輸入協会史 (57)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

61 事後通関、一括通関及び各地税関の見解統一に関する陳情

61.1 通関手続きの規定が、書籍・雑誌の情勢変化との間にギャップを生じ、実情に合わなくなってきたこと
もともと書籍・雑誌はその特殊な性格からして一般商品の通関手続きと馴染まず、何かと税関との間で問題が起こっていた。その上に戦後次第に郵便物による輸入が増え、更に航空便や航空貨物の利用が増加し、また購読者へ直送される定期刊行物の種類、量が急速に増大している情勢の変化が生じてきた。

このために、事前通関という大原則にもかかわらず、商品が配達された後に通関手続きをする事後通関、及び全国各地の税関を経由しながら、通関手続は本社所在地においてのみ行わざるを得ない一括通関のケースが増えてきた。また航空便においては、税関の場所と事前通関の建前から、商品到着から引き取りまでに時間がかかるなど、情勢の変化と通関規定との間にギャップを生じ、これが逐次拡大していく傾向にあった。そのために各地の税関で解釈や対応に差が出て、解釈の厳しい税関では業者側が困り果てるということも出てきた。

これらのことを含めて、昭和32 (1957) 年6月3日の同業会懇談会には、東京税関から6名の出席を得て、31名の会員との懇談会が持たれた。その結果は翌6月4日付の海輸第22号で、税関よりの要望が列挙された形で会員に配布されている。このように税関側の要望が相次いでいるのも、税関側には、「書籍及び定期刊行物の輸入手続きは、特別な取り計らいになっているため、間違いないよう、くれぐれも良心的な取扱いをするよう」との大蔵省、通産省の要望がなされている (昭和31年9月12日付、海輸第153号、協会史 (43) 51.3項参照) ことと関係がある。即ち、税関側には「特別な取り計らいをしているのだから、その範囲内での手続きは厳重に守って貰わなくては」との思いがあり、業者側には「現状程度の特別な取り計らいではとても実情に合わない」との思いがあった。

関西支部でも東京と同様、大阪税関との懇談の場を6月上旬に持っているが、こちらでは東京よりもっと厳し

い要求を出され、海輸第22号で会員に知らせた懇談会の内容を、逐条もっと詳細に書き送ってくれと、山内氏から事務局の田辺氏宛に申し入れてきている。関西支部の困惑と、何とか円滑な処置を税関に対して要望したい気持ちの溢れている手紙である。

61.2 陳情文提出

昭和33 (1958) 年に入っても通関の諸問題は断続的に発生しており、6月には名古屋税関からライセンスの裏書の基準が違うとの申し入れが大蔵省税関部に届き、その件で丸善、田辺・大島氏、紀伊國屋、相良が6月27日に大蔵省税関部へ出向いて現状の説明を行った。そして目下のところでは東京税関の通関方法が最も妥当と思われるので、これで全国の税関を統一して頂けないかと意見を述べている。

7月には書籍・雑誌の特殊性についての説明を加えて、これらの問題に対する対策を陳情する文書を起草し、8月8日の理事会でこれを可決、直ちに大蔵省へ提出した。そしてこの件を昭和33年8月9日付、JBIA No.31で次のように会員に知らせている。この陳情文は、書籍・雑誌の事後通関の原則と、通関手続を輸入承認証を取得した所轄地の税関で一括して行う原則とを、その後永らく確立した画期的なものである。その重要性和この種の陳情文の中では簡にして要を得たものであることにかんがみて、全文を掲載する。

記

書籍及び定期刊行物の郵便ならび
に航空便による輸入通関について

従来郵便及び航空便の通関について全国税関に夫々違った見解を生じて不便がありましたので、この統一取扱いについて別紙の通り願書を大蔵省主税局関税部長宛に提出致しましたから左様御了承下さい。

[別紙] 書籍及び定期刊行物の郵便ならびに航空便による輸入通関についてお願い

昭和33年8月

洋書輸入協会

理事長 司 忠

書籍および定期刊行物の輸入が我国の産業、経済、学術ならびに文化の向上について必要不可欠なもので、この敏速なる輸入は一日も忽せ（ゆるがせ）に出来ないことは今更申し上げるまでもありません。

書籍および定期刊行物の一部には、貨物便（船便）による一般輸入品扱いの可能なものもありますが、近頃大部分が郵便即ちBook Post或いはPrinted Matterで輸入される傾向にあるため、少々一般とは違った点がありますので、通関に当り、各所轄地の税関において違った見解も生じ、特別な御配慮を煩わすことも起こりますので、できるならば左記の方法により統一された御措置が実施されますようお願い申し上げます。

記

- (一) 郵便物による書籍および定期刊行物の輸入通関は事後通関を原則とする。但し税関において事前通関を必要とする場合はこの限りでない。
- (二) 郵便物による書籍および定期刊行物の輸入通関は業者の本社所在地、即ち輸入承認証を取得した所轄地の税関で一括して行うことを原則とする。
- (三) 航空便によるものも右に準じて取扱う。

而して、現在東京税関東京外郵出張所において実施されている通関方法が最も当を得ていると思われれますので、概要を御説明申し上げます。

輸入報告に必要な提出書類

- 1. 輸入承認証正本一通
- 2. インボイス（荷造人よりの送り状仕切書）1通
- 3. 輸入報告書正副2通
- 4. 必要とされる場合の誓約書夫々1通

東京における本会輸入業者は、本社において一括輸入承認証を取得し、発注、送金し、送本はその本社支出張所に送られる外、特に定期刊行物の多くは、全国に散在する大学、図書館、研究所、会社、個人へも送付されておりますので、その所轄地の税関に通関手続を致すことにも無理がありますが、又これを確認することにも困難を生じますので、本国から送られるインボイスを入手後、一定の期間内に一括して東京税関東京外郵出張所に提出して、便宜上通関をお願いしている次第です。

尚、税関において事前通関を必要とされるものについては、その都度ご指示により必要書類を提出しております。

ただし、商慣習上度々の指示にも拘わらず、インボイ

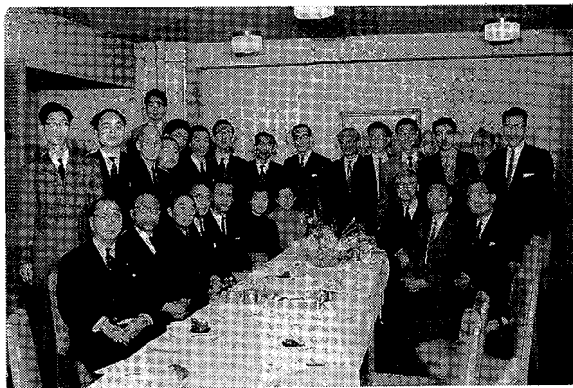
ス面に署名が無いもの、或いは郵税が仕切られていないもの（Post Paid郵税込）その他政府、学会等特殊刊行物の為、インボイスを発行せず、商社の注文書に価格その他必要事項記載の上、返却されるものなどもあり、これらにつきましては誓約書を提出し、特別のご配慮を頂いている次第です（この誓約書については上述の通り商習慣上まことに己むを得ぬものでありますから、誓約書提出を撤廃して頂きたいと思ひます）。

また所轄外の税関を通じて輸入される場合に必要書類の提出を求められるものについては、できるだけ該当書類を提出、通関手続を行っておりますが、以上のごとき特殊の問題についてその都度説明を要する外、既に東京税関において通関済の場合も生じ、お互いに不便を感じます。

航空便によるものの内、現在羽田税関支署を通過する業者宛のものにかぎり、全部保留して必要書類の提出を求められておりますが、特に必要あって高い航空料金を支払って輸入するものが、数日間といえども遅れることは不合理ですから、これも是非郵便なみに御訂正下さる様お願い申し上げます。

右何卒御詮議の上、当洋書輸入協会には特別御寛大な御措置が実現されます様、全会員を代表してお願い申し上げます。（以上）（続く）

[写真] 昭和33年（1958）年3月7日、丸善地下ピーコックにおいて開催された懇談会に出席した米国Feffer & Simons社のMr. P. Fefferを囲んで。もう一人の米国人は、American Book CompanyのMr. L. L. Bruggmanと思われる。



東京の坂と橋と文明開化 (8)

乃木坂と「龍土会」——文芸サロンと明治の西洋料理店——

丸善・本の図書館 鈴木陽二

野田宇太郎氏の「竜土会再興記」(丸善『学鑑』)に興味を引かれ、「龍土軒」を訪ねてみた。西麻布にビストロ風のこじんまりとした店を構えている本格的なフランス料理店であるが、私は食事をしながら、日本の文芸史、あるいは、政治的激動のある部分と関わったこのレストランの希有な歴史に思いを馳せ、深い感慨を覚えたものであった。

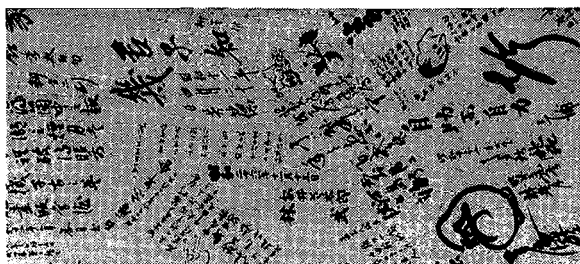
「龍土軒」は明治33年、麻布の新龍土町(現在六本木7丁目)に開店した。日本の西洋料理店は、幕末には既に所々に開かれていたことが『武江年表』に記されているが、東京では明六社の会場としてよく使われた神田橋の「三河屋」が明治3年以前に開店して西洋割烹の元祖と称され(成島柳北)、明治5年には「精養軒」が創業し、30年代になると洋菓子の「風月堂」も西洋料理をだすようになって、この頃には東京の洋食店は40軒程を数えたという(富田仁『西洋料理がやってきた』)。明治37年には、現在も日比谷公園にある「松本楼」が開業し、後年ここで耽美派詩人達の「パンの会」が開かれ北原白秋がのちに発禁処分にあった詩「おかる勘平」を発表朗読したという。文献類も既に維新前後には文久元年の又玄齋南可著『新編異国料理二冊』を初め、福沢諭吉の『西洋衣食住』(慶応3年)や假名垣魯文著『西洋料理通』(明治5年)などが刊行されている。

さて、明治も30年代になってフランスの文芸サロンや文芸カフェの風潮が日本でも流行してきたが、黒田清輝などの美術団体「白馬会」の美術家達も「龍土軒」に出入りし会合をもったりしていた。柳田国雄は田山花袋や国木田独歩など友人、詩友達と自宅でサロンを開いており、また、巖谷小波は永井荷風など若い作家の育成を目的に「木曜会」という会をつくっていた。蒲原有明はこれらの会に関係していた。やがて柳田のサロンも人数が増えたため会場を外に求め、明治37年蒲原有明が幹事の時に「木曜会」をさそって「龍土軒」で開催し、そして、レストランに因んでこの会を「龍土会」と名付けた。「龍土会」のメンバーは誠に多彩で、当時新思潮であった自然主義系の文学者が糾合し、岩野泡鳴が「わが国の自然主義は龍土軒の灰皿からおこった」と記す程の影響力を

もち、自然主義文学の成長に貢献した。しかし、会は次第に懇親会や宴会が主になってきて本来的な性格が失われたため、明治40年には柳田国男らの主だった文学者が別に「イプセン会」を結成し、イプセニズムの浸透に啓蒙的役割を果たすことになる。こうして盛んだった「龍土会」も、明治41年の国木田独歩の病没、大正初めの小山内薫や島崎藤村の洋行などもあって衰退し、やがて終焉する。その後大正4年になって再び「龍土会」が開かれ、また、戦後も新龍土会がもたれたが、いずれも大きな意味をもたずに短期間で消滅してしまう。

ところで、二・二六事件は歩兵第一聯隊と第三聯隊の少壮将校達による叛乱であった。その時分、第一聯隊は赤坂檜町(今は防衛庁)に、そして、第三聯隊は通りをはさんだ向側新龍土町(現在の東大生産技術研究所)にあって、将校達は盛んに「龍土軒」を利用したという。日本の陸軍はフランスの軍制を導入した関係で、将校にもフランス好みが多かったようで、例えば、このすぐ先に住んでいた乃木將軍も来客があると「龍土軒」のフランス料理を出前したという。そして、クーデター計画はこのレストランで謀議されて勃発する。首謀者達が「龍土軒」に宛てて書き残した遺書が今でも保存されていると聞く。

乃木神社は乃木坂に面して鎮まる。神社の横手には乃木將軍の屋敷が今でも残されていて、やや暗いだけまゝをみせている。萩原朔太郎が歌った「乃木坂倶楽部」はこの近くにあったのだろうか。このアパートでの凍えるような荒涼とした朔太郎の生活を感じるよすがもなく、私は晩秋の明るい日差しを浴びながら乃木坂を下って檜坂へと向かう。(写真)「龍土軒」につどった文人・画家達の寄せ書き、島崎藤村・正宗白鳥などの名も見える。



ドイツおよびヨーロッパにおける書籍市場とメディア諸構造(2)

展覧会・見本市主催会社 (Ausstellungs- und Messe-GmbH)

名誉会長 Dr. ウルリッヒ・ヴェクスラー

Ⅲ. ヨーロッパ共同体の出版業

Ⅲ. 1. 書籍市場

ヨーロッパの書籍市場は、言語上異なる新刊書を合計した数で見た限り、世界最大です。欧州諸国における集中化の現象は、多少の差はあるにしても、ドイツ連邦共和国の状況と似ています。いくつかの例を上げて説明してみましょう。イギリスのReed、Pearson、フランスのHachette、Groupe de la Cite、オランダのWolters Kluwer、Elsevier、イタリアのMondadori、RCS Rizzoli、スペインのSantillanaおよびAnaya、またドイツのHoltzbrinkおよびBertelsmannは、グローバルにオペレーションをする多国籍メディア・コンツェルンです。

書籍の販売業務では、ヨーロッパの他の諸国においても、先ほどドイツについてご説明いたしましたような状況が、似た形で観察されています。

ヨーロッパ共同体における書籍貿易については、ドイツ側の観点から次のように概略したいと思います。ドイツ連邦共和国は1988年にヨーロッパ共同体諸国から、総額2億1,700万マルクの書籍を輸入しました。それとは別に総額1億5,500万マルクの新聞・雑誌類が輸入されました。ヨーロッパ共同体諸国に対しては、ドイツ連邦共和国から約3億4,400万マルクの書籍・6億2,580万マルクの新聞・雑誌類が輸出されました。

1988年の西ドイツ出版業の年間総発行数である約69,000の中、約1万、つまり約14%は外国語からの翻訳で、中でも英語(6421)、フランス語(1266)、イタリア語(436)、ロシア語(248)およびスペイン語(242)の原文が上位にあり、翻訳物の88%を占めています。ヨーロッパ共同体諸国の年間新刊数に占める翻訳の割合は、通常15~21%です。したがって、広範囲にわたって外に対して開かれた書籍市場と言うことができ、書籍タイトルのうち21%は隣国の発行書を、翻訳という経路で引受けているわけです。権利・ライセンスの授与は出版者の企画においても重要な要素となっています。

Ⅲ. 2. ヨーロッパ書籍市場の競争マトリックス

ヨーロッパの書籍市場は印刷物とエレクトロニクス・

メディアの間の顕著な構造転位にさらされています。読書時間は減少し、他の余暇活動とテレビにより多くの時間が費やされています。この現象は、日刊新聞とラジオとの競争関係に類似しています。一般的には、今後さらに情報・メディア社会化、そしてまたレジャー社会化しつつあるヨーロッパの産業社会について、次のような確認をすることができます。

次第にエレクトロニクスが支配を増すメディア社会においては、読書力および読書心が減退している。文盲の数が増加している。知識のギャップは深まり、新しい階級社会(一方で知識のエリート、他方で知識のプロレタリアート)が誕生しつつある。職業上の資格・資質向上・終身教育は直接の危機にさらされている。

各研究や調査の結果は、エレクトロニクス・メディアによる情報および知識の伝達が読むメディアと合わせてはじめて、効果があることを裏付けています。読むということは、メディア処理能力と判断力の前提条件であり、文化および社会生活への参加の鍵であり、各個人の職業上の成功と経済のパフォーマンスの基盤なのです。

「頭脳の新しい貧困」に対抗し、全ての住民層における読書、読書力、読書心を高めるために、読書振興コンセプトおよびプログラムが必要なのです。そのようなイニシアティブやプログラムやプロジェクトは、文化・社会・経済にとって読書が持つ意義についての政治的・公共的意識を振り起こしながら、住民の具体的な読書関心と読書能力を促進しなければなりません。私たちは現在、信頼できる研究結果から、読書がテレビとは逆に、特に効果的な知能組織を促するものであることを知っています。読書とは、現実を解釈する機会を与える、導かれた想像と呼ばれるものです。

悲観的な声は、メディア市場の発展について、メディア発展の「主敗者としての書籍」を語っています。私はそれには賛成しがたいと思います、あるいは同意するとしても留保つきです。

将来のメディア市場における書籍によって、肯定的な信号を見せる発展もあるのです。

- * 将来のメディア市場は、多数のメディア商品のための断片された市場になるでしょう。
- * ヨーロッパの住民は平均して高年齢化し、より長く働き、その際、常に自己教育を続けるでしょう。これは書籍・雑誌市場にとっては有利な状況です。
- * 専門大学および大学教育を受けた就労人口が西暦2000年までに恒常的に上昇することが予測されます。一般的に高等教育を修了した人の割合が高くなると前提できます。
- * テレビ番組供給が増大することによって、プリントメディアの価値を見直す方向へと転じることは、ありえないことではありません。読書振興措置はその際、役立つでしょう。

全体として、ヨーロッパのメディア市場に関して考慮すべきは、言語および文化的伝統の多様さが、欧州メディア市場の統一性を一定の限度内でしか、あるいは全く許さないということです。

ヨーロッパ書籍市場では目下まだ2つの危険要因が存在します。

- * まだはっきりしていない統一売上税（通常税率として14~20%、換算控除税率が5~9%）
- * 国によって異なる価格維持協定の法規。これに関しては、ヨーロッパ書籍市場にとって、ヨーロッパ議会による立法上、最も興味深い法制統一化のプロセスが予定されています。

IV. メディアのヨーロッパ

ヨーロッパを見た時、次のことが確認されます。

- * コミュニケーション市場は更に成長し、競争の激しさはますます増大するでしょう。
- * ヨーロッパレベルで活動するメディア企業の成功は、その企業のプログラムの創造性と国際的なインフラストラクチャーが決定要因になるでしょう。
- * プログラム、メディア内容および著作権は90年代の貴重な資源になっていくでしょう。
- * 少数の大手メディア・コンツェルンのみが生き残り、90年代のコミュニケーション市場を支配するというテーゼは、私は間違いだと考えます。
- * メディア産業は私の推測では、将来3つのタイプの企業から構成されるでしょう。
—まず多数の小さい、創造的な単位があり、これらは

プログラムイノベーターとして、「大企業」の行動様式に影響を与えていくでしょう。

—また今後も、差別化した地域・文化・情報・娯楽構想を追求する多数の大手出版社およびメディア企業が存続するでしょう。

—最後に、今後も少数グループであり続ける、国際活動を営む大企業があり、大規模かつ高額の大量ソフトのマーチャンダイジングおよび生産に取り組んでいくでしょう。

—この構造はメディア業界の活性を維持するでしょう。このようにしてダイナミックスが起こり、モノストラクチャーを防ぐばかりでなく、反対に多様性と質をメディア利用者に有利な形で、もたらすでしょう。

「メディアのヨーロッパ」におけるエレクトロニクス・メディアに関する統一ヨーロッパ決議である「ACTE・UNIQUE」が定義したことは、大まかには変わらず有効です。統一ヨーロッパの多国語性と多文化的現実が「……かつて知らざるテレビ番組の多様性、つまり文化、娯楽、サイエンス・フィクション、ニュースその他を保障し、純粋に民族的な視聴者、市場、チャンネルの時代はもう残り数える程しかないのである。」

* ただしこの多様性の向上は、自動的にレベルの向上を意味するわけではありません。

V. おわりに

ヨーロッパは大きく開かれた市場で在りつづけるでしょう。この市場に加担する者は、欧州の微妙な、異なる文化条件を考慮するなら、地域的にも全域的にもチャンスを持ちます。それが市場参加者の成功を決定するでしょう。1993年のヨーロッパは、文化的多様性のヨーロッパであり、多様な言語アイデンティティーのヨーロッパであり、そのためにまた多彩なマルチメディアの市場になっていくことでしょう。（終）

（紙面の都合上、一部省略させていただきました。）

ヒュンメル著

高分子、プラスチック、繊維、ゴムの赤外線スペクトル集

新訂第3版 第1巻 近日入荷!!

Atlas of Polymer and Plastics Analysis 3rd Revised Edition

Editor: Dieter O. Hummel

Volume 1: Defined Polymers (2779 スペクトルを収録)

価格 ¥86,800 (全巻予約価/各冊) ¥105,000 (単冊)

出版社 VCH Verlag GmbH (Weinheim)

ポリマーの赤外線スペクトルを収録したデータ集として“Hummel”の名で親しまれてきた本書は、この10年間に新しく開発されたポリマーをFT-IRで採録、新訂第3版、全4巻で発行されることになりました。スペクトルの大部分は第2版には含まれていません。第2版をお持ちの方も追加データ集として是非おそろえください。

————— 以下 続 刊 —————

Volume 2: (1991) Industrial Polymers; Plastics, Fibers,
Rubbers, Resin

Volume 3: Additives, Pigments, Auxiliary Products

Volume 4: Physical and Chemical Methods



— 総 代 理 店 —



三洋出版貿易株式会社

本 社 〒103 東京都中央区日本橋茅場町1-11-8 (紅萌ビル) TEL 03(3669)3761

営業所 〒540 大阪市中央区内平野町2-3-5 (石井ビル) TEL 06 (947) 1150

〒792 愛媛県新居浜市西原町1-3-18 (昭和ビル) TEL 0897(32)2530

1990年11月 通巻第283号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329